

令和6年10月

令和6年度実施 全国学力・学習状況調査を終えて

作成：教務主任

令和6年4月、全国の第6学年児童を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。今年度は、昨年度同様、国語科・算数科における調査でした。

国語科においては、「知識及び技能」の観点の内、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の2点において、良好な結果となりました。本校では、学習の下支えとなる基礎的・基本的な学力の向上と定着を図るため、チャレンジタイム（毎日、15分の枠で実施）の活用を推進しています。国語科における語彙力の向上に向け、教員が共通実践した結果であることが伺えます。また、「思考力、判断力、表現力等」の観点においては、「話すこと・聞くこと」の正答率の向上が見られました。国語科だけでなく、各授業においても対話的な学習を効果的に取り入れてきたことで、教科横断的に力を身に付けることができたと考えられます。

反面、「読むこと」における正答率がやや低く、特に、「人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える力」に課題があることが分かりました。図書ボランティアのご協力による朝の読み聞かせや読書貯金カードを活用した読書の推進等、「チーム学校」として、組織的及び継続的に取り組んでおりますが、より一層充実した学びを提供できるよう努めてまいります。

算数科においては、学習指導要領の領域である「図形」「データの活用」において、良好な結果を得ることができました。「図形」については、昨年度の反省を生かし、「デジタル教科書やタブレット等の意図的な活用を進める中で、具体化から抽象化へと授業改善を図ること」に注力したことで、改善を図ることができました。

反面、「数と計算」「変化と関係」領域において、基礎的な計算力の定着に課題が見られました。算数科においても、チャレンジタイムを通して、数学的な見方や考え方を育むために、基礎的・基本的な内容の定着に励んでいきます。また、校内外の研修を通して、有意的に概念を構築していくことを教員同士が共通理解した上で、研修部を中心に学習環境を整備し、総合的な学力の向上を図っていきます。

★ 令和6年度 全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料

国立教育政策研究所 HP より (<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>)